

口唇拡大術とは

口唇拡大術とは、唇の厚みを厚くする手術です。上下の唇のバランスを見ながら組織を入れ替えることで唇を厚くします。傷は口唇上に薄く白く残ります。口唇が薄いと冷たく老けた印象を与える場合がありますが、適度な厚みの唇は女性らしくセクシーで若々しい印象を与えます。

口唇拡大術後の状態・ケアについて

- ・ 1～2週間後に来院していただき、抜糸を行います。
 - ・ 手術から抜糸まではワセリンで常に保湿を行ってください。
 - ・ 口元以外のメイクは手術直後から可能です。リップメイクは抜糸完了後、翌日以降可能です。
 - ・ 傷口への刺激や腫れが長引く原因になりますので、刺激物の飲食は術後1週間ほどお控えください。
 - ・ 当日は体が温まり血流が良くなると出血する可能性があります。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂を避けていただき軽めのシャワーのみでお過ごしください。
 - ・ 飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
 - ・ 運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。
 - ・ 歯の治療やカラオケなど、口を大きく開く行為は術後1ヶ月ほどお控えください。1ヶ月経過後も、口を開ける際に違和感が継続する場合があります。術後半年程度は手術部位の様子を見ながら、無理のない範囲で口を開くようにしてください。
- ※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
- ※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

口唇拡大術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

唇の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出ることがあります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の口元の形、歯並び、筋肉の動き、普段の生活上の癖など様々な原因で、完全な左右対称には仕上がらない場合があります。【痛み】局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より腫れが顕著に起こります。概ね1～2週間ほどで腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

【傷跡】

時間経過とともに目立たなくなりますが、まったくなくなることはありません。

【違和感、感覚低下・引き連れなどの感覚】

術後、むずむずする・突っ張るような違和感や痺れを感じる場合があります。多くの場合、時間経過とともに違和感は消失していき、概ね数ヶ月ほどでより違和感が薄くなっていきますが、稀に違和感が残る場合もあります。

【予定形態との差】

仕上がりが完璧に自分の理想の形にならない可能性があります。唇や口元の構造は人によって千差万別であり、必ず個人差があります。そのため、患者様のご意見を伺ってなるべくその形に近づくよう手術を行いますが、微妙な左右差や希望のデザインとの差異が生じるなど、手術後に完全な理想通りの仕上がりが実現できない場合があります。

口唇拡大術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、手術部位周辺に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会

THE ONE.